

### International Institute of Multi-Cultural Studies

### 特定非営利活動法人

# 国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 25. No.2. 2024年9・10月号

## 鷺の宮卓話

# 小さな交流プログラム

太田敬雄

国際比較文化研究所を立ち上げてから、もう 直ぐ25年が経過しようとしています。それま で学校教育の世界を離れたことが無かった私は 何もわからないままに「平和な多様化世界の実 現しという大きな、イヤ、大きすぎるようなビ ジョンを掲げての発足でした。立ち上げの段階 から大勢の方々に支えられて、色々と試みて来 ました。

その中で、設立して間もなく始めた「多文化 交流プログラム」が今日では当研究所の中心的 な活動に育ってきました。現在では毎年2回安 中で開催する「多文化交流 in ぐんま」の他にイ ンドネシアと韓国でそれぞれ1回開催していま す。(海外での開催は当初は IIMS 主催で始めま したが、今日ではそれぞれの国の多文化交流実 行委員会主催で、そこにこちらのスタッフも委 員会メンバーとして参加しています。)

どの多文化交流プログラムも大学生が実行委 員として企画・運営しています。もう一つの大 きな特徴は日本語での交流プログラムとなって いることです。

毎年、私は各プログラムの中で次のような話 をさせて貰ってきました:「国も文化も言語 も、みんな違う人たちが友達となって手をつな ぎましょう。その友達のネットワークで地球を 覆う時に初めて平和な地球社会が生まれるので す。」

多文化交流プログラムでは、寝食を共にしな がらひたすら楽しく過ごすようにしています。

来年の「多文化交流 in インドネシア・マラン 2025 | のチラシには日本在住スタッフの伊藤さん が次のように書いてくれました。「多文化交流と は…/国を超え、お互いを知り、手をつなぐ、/ そして心がつながる。/そんな友達に出会えるの が「多文化交流」です。/一緒に遊び、語り、笑 い、美味しいものを食べる。/これはきっかけ で、ここからスタート、/これからもずっとつな がっていく。/その感覚と感動を、あなたにも味 わってほしいのです。」

プログラムの企画として文化の違いや「平和」 について語り合ったり、「真面目に」何かを議論 するような企画は立てません。一番大事な事は、 お互いに気を許し合い、受け入れ合っていく中で 自然発生的に生まれてくるものだと確信するから

私が思い描いたよりも遥かに素晴らしいプログ ラムが出来ていることは大きな喜びです。しか し、「友達作り」の企画に内在する問題がありま す。それは一方では「友達のネットワークで地球 を覆う」という壮大なヴィジョンを持ちながら、 決して大きな集まりには出来ないことです。

東京ドームに、あるいはウッドストックに何千 人、何万人と集めて出来るなら、それなりに注目 もされるのでしょうが、それでは真の友達作りプ ログラムは出来ないのです。多くても数十名単 位の小さな集まりであることが友達作りには大事 なのです。

今、私が祈るのは、このプログラムに参加した 人たちが、それぞれ自分の国で・地方で自分たち らしい「多文化交流」を立ち上げてくれることで す。「多文化交流」が世界各地に飛び火し色々な 言語で実施される日が来ることを夢見ています。

# 多文化交流 in ぐんま 2024 夏 2024.8.16-18.

田中結衣 共愛学園前橋国際大

昨年の春、何かを得たくて思い切って参加した多文化交流 in ぐんまが自分にとってこんなに大きな存在になるとは想像もしていませんでした。私は 2023 夏、2024 冬のスタッフとして 2 回参加し、今回は代表という形で参加をしました。今回感じたのは今までスタッフとして



参加した「多文化ぐんま」と代表として参加した「多文化ぐんま」への感じ方がが大きく違っていた事です。それを1番感じたのが最後の挨拶のときです。今までの2回ともスタッフとしてやりきった達成感を感じ涙していたのですが今回は全く涙が込み上げて来ませんでした。それは今まで感じたことの無い代表としてのプレッシャーと、参加者が楽しめたのかが最後の最後まで不安でたまらなかったからだと思います。ですが挨拶終わりに参加者のみんなから「最高だった!ありがとう」「お疲れ様。参加してよかった」と言って貰えたことが本当に嬉しくて大号泣してしまいました。何年も前から行われてきた多文化ぐんまが今も変わらない形で行えていることへの感動と年齢も国籍も性別も違う人々が同じ場所で寝食を共にしている素晴らしさを改めて実感出来た3日間となりました。三ヶ月間、大変だったことも一緒に乗り越えてきてくれたスタッフのみんなと最高の出会いを与えてくれた多文化ぐんまに最大の感謝をしてこの文を終わりにしたいと思います。

鈴木 華純 群馬県立女子大学

(前略)多文化交流会は歴史が長く、そのため周りは既に知り合いだったり、友人だったりと関係が構築されており、極度の人見知りだった私は早々に疎外感を感じ、正直参加したのは間違いだったかもしれないと思いました。しかしそんな思いとは裏腹に2泊3日の間で国籍問わず友人ができました。



全日程を通して、スタッフの方が考えてくれた様々なレクリエーションを楽しみました。レクリエーションの度にグループが変わったため、参加者全員と話すことができ、とてもありがたかったです。特に私が印象に残っているのはサマーリース作りです。リール作りを時間内に終わらせることが出来ず、その日の夜、自由時間に1人で折り紙を折っていたところ韓国人の子が一緒に作ってくれたのがきっかけで、初めて友人が出来ました。

2 日目には、まなぱるキッズと一緒に運動会や BBQ を楽しみました。運動会は大人も子供も楽しめる演目で構成されており、私も童心に返って、気付いたら子供のようにはしゃいでいました。元々子供が好きだったため、子供と触れ合えた時間は今でもとても貴重だったと感じ、また子供たちに会えたらと思います。また、2 日目の夜、初めてモンゴル人の方とお話する機会を得ました。聞いた事のない他国の文化に驚きを感じつつ、知見が深まり、現在でもその方と親交を深めています。(略) 2泊3日、本来人見知りにとってはとても長い時間ですが、あっという間に過ぎていき、名残惜しさとともに学習の森を去った記憶がよみがえります。

今回、念願の外国人の友人もでき、良い思い出ばかりを抱えて帰ることが出来ました。しかし、閉会式でスタッフ側の思いを聞いたことで、この会がいかに日本と世界を繋ぐ架け橋になるよう時間をかけて作り込まれているか、安全に楽しんで貰えるよう工夫されているかを感じ、込められている思いの重さを知りました。次回参加する際にはこのような思いを一参加者として念頭に置き、今回以上に楽しみながら多くの学びを得たいと思います。

クリスナル NIPPON 語学院(インドネシア出身)

私にとって、多文化交流は、日本中の人々がひとつのプログラムに集まり、文化を学ぶことができる素晴らしい場所です。新しい言語を学び、友達を作り、食事をし、情報を交換するなど、さまざまなことができます。私にとって、最初は、ストレスの多いことから離れて自然の中で癒される良い週末になるはずでした。しかし、それは癒しのプログラム以上のもの



であることがわかりました。退屈な電車の旅から楽しい交流へ。安中でこのような活動に参加できてよかったで

す。私にとっては新しい経験でしたし、スタッフと食ボランティアの皆さんは、優しい手と温かい心で私を迎えてくれました。私は週末中、喜びと幸せに過ごし、家に帰る頃には精神的に完全に癒されていました。多文化交流は本当に素晴らしいプログラムです。お祭りイベントにするために一生懸命働いてくれた、クールで素敵なスタッフと食ボランティアの皆さんに感謝します

## 多文化交流 in 韓国プサン 2024 2024.8.22-28.

日本側引率 林紗衣里 群馬県立女子大学

1週間という時間は本当にあっという間で、前半3日間の全体での活動でも、4,5日目の班別活動でも、最終日の全員で行ったロッテワールドでも充実した時間を過ごすことができました。



幸運なことに、前回に引き続き今回も参加することができ、同じプログラムでも開催する年や参加する人が変わることで、全く異なった体験をすることができることを知りました。特に印象に残っていることは、1、2日目にもかかわらず、たくさんの人が夜遅くまで語り合っていたことです。その様子を見て、やはり「友達になる」ということに国境や文化は関係ないということ、友情の輪は世界中どこまでも広げていくことができるのだということを切実に感じました。

また、今回は引率として参加者のサポートをしたり、全員の前で話したりすることが多々あり、自身の成長の場にもなりました。2度も参加できただけでなく、たくさんのかけがえのない友達を作ることができたこと、引率という役割を務めさせていただけたことにとても嬉しく思います。

改めて、今回の「多文化交流 in 韓国プサン 2024」の開催にあたりご協力いただいたたくさんの方々、プログラムまでの約 4 か月と当日の 7 日間、一緒にたくさん準備してくれた多文化交流 in 韓国プサン実行委員の皆さん、のびのびの 3 人に心から感謝しています。

野田騎希 都留文科大学

多文化プサンに参加したきっかけは多文化マランに参加したからです。プサンでの生活は忙しながらもとても充実した毎日でした。空港で会う人のほとんどが初対面で不安でいっぱいでした。しかし、交流をしていく中でいつも間にか年齢、性別、国を関係なしに絆が深まっていくのを体感しました。

多くの友達と韓国の伝統的な衣装、韓国料理を堪能できるのはこの多文化交流プサンならではです。今回の「繋がり」は始まりでしかないのでまたいつか皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

多文化交流に関わる全ての皆さん、本当にありがとうございました。

のびのび会長 ペク・スンフン 釜山外国語大学

昨年に引き続き、今年も釜山で多文化交流会を開催することができたことを心から感謝します。 交流会での一週間は本当にあっという間でした。 しかし、すべてが鮮明に記憶に残り、今も目 を覚ますと友達と朝の挨拶を交わしながらどこかに一緒に行くような気がします。



釜山は山と川、海が調和した美しい都市で、私は釜山で生まれ育ったので、ほとんどの場所に行ったことがあります、今回の交流会で新しい友達と一緒に過ごした時間は、また別の特別な思い出として残りました。 同じ場所でも一緒にいる人たちが違うと、そこは全く違うように感じました。

(中略) 今回の交流会を通して、私たちはお互いの文化をより深く理解し、友情を築くことができました。 このような経験がこれからも日韓両国の関係をより一層深めてくれると信じています。 もう一度、今回の行事を有終の美を飾れるように助けてくださったすべての方々に感謝し、今後も持続的な交流と協力を期待します。 おわび) ぐんまと釜山の感想は紙面の都合で不本意ながら一部カット、あるいは加筆・校正させていただきました。



■■ https://manapal.jp/ ■■ Manapal&IIMS のホームページが全面リュニーアルされました。当教室の授業内容や雰囲気が伝わる素敵なページに生まれ変わりました。

リニューアルは安中市商工会(担当佐藤様)に多大なサポートをいただき小規模事業者持続化補助金の交付を受け、デザインや移行をウェブデザイナーHiroyuki Yokoi 氏に依頼し完成しました。8月のリニューアル以来、新規問い合わせを多数いただき嬉しくありがたい限りです。このサイトを通じて適切な情報・当教室のありのままをお伝えしていきたいと思います。皆様のお越しをお待ちしております♪

# 会費及びご寄付のお振込みについて:

## 【クレジットカードによる手続き・お振込み】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページから アクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ https://iims-japan.org/ 【振込用紙によるお振込み】

郵便振替口座:加入者名 国際比較文化研究所 口座番号 00510-1-61974

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振 込用紙を同封させていただきます。これは請求書では なく、一律に皆様にお送りしているもので、すでに会 費をお振込み下さった方にもお送りしています。

メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送り しておりませんが、郵便局の振込用紙、もしくはカードでお振込みくださいますようお願いします

大勢の皆様の会費やご寄付に支えられて今年も活動を発展させています。有難うございます。 ご入会状況/会費・寄付振込(24.7.11.~10.20)カード振込((24.5.1~9.30)

会費のカッコ内は年度。カッコ無しの氏名のみは2024年度会費。敬称略

**賛助会員入会**:橋詰元良、

学生会員入会:内川佳基、狩野陽南、守岡祈、櫻井澪、村瀬陽香、高見沢沙慧、工藤友香、村田花音、渡部真薫、小原ひな、小俣絢子、鈴木零梨、小野寺凛々、佐藤ななみ、須川耀、井上結、小野莉恵、矢島琴恵、鈴木華純、腰越路楓、黒岩珂秀、ソン・ヒョンジュン、

正会員会費: 菅ケ谷純弘、野口紀子、江口綾夏(23,24)、恩幣宏美、

**賛助会費**:丸山武子、山縣英明、佐俣久子(25)、岩本松江、木村隆、梶原悦子、小坂景子、田中志乃、梶山拓弥、關橋理紗、橋詰元良、中村さよ、山崎恵美子、関口澄、

一般寄付: 岩本松江、村井田和夫、阿部洋一、狩野真由美、關橋賢、郡司理佳、江口綾夏、Yayoi Eisterhold、山崎恵美子、

まなぱる寄付: ウィンディ・アユ・ヌグ・ラハリニ、松香洋子、

**毎月寄付:**樋本達之、根岸大輔、Rosdiana Febrianti、藤本恵大、内野春香、片岡謙、清水理沙。

編集後記: ☆10 月になり郵送料が高くなりました。これまで郵送で受け取って下さった方でメール添付でも良いと言う方は一言お知らせいただければ幸いです。

☆研究所のホームページ、まなぱるのホームページ、ご覧いただけましたでしょうか。

☆皆様に支えていただいて、もう直ぐ 25 年になろう としています。有難うございます。(敬) 発 行:特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所: 379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3 電 話: 027-382-5998 FAX:027-382-6393

研究所 HP: https://iims-japan.org

メールアドレス: iims.since2000@gmail.com

まなぱる HP: https://manapal.jp メールアドレス: mail@manapal.jp

郵便振替口座:加入者名 国際比較文化研究所

口座番号 00510-1-61974